

ニ上山だより

ホトギスの初音・エゴノキの落花

5月22日ホトギスの啼く声を聞いた。今年初めてだ。サンコウチョウ（三光鳥）の独特の鳴き声もどこからか聞こえ、登山道には白いエゴノキ（エゴノキ科エゴノキ属）の落花が目立っている。

山の緑はその色を深め、草いきれ、花の香りが鼻腔をくすぐる季節なのだ。

白磁碗のようなイチヤクソウ

三寒四温が繰り返されたせい、蕾をなかなかほどこうとしなかったイチヤクソウ（イチヤクソウ科イチヤクソウ属）が待望の花を見せ始めた。白磁の碗を伏せたような可愛い花を細い茎に縦に連ねてぶら下げている。

この植物も土中の菌類（菌根菌）にその生活の半ばをゆだねている「半腐生植物」だから、家庭に持ち帰ってもおそらく根付かないのに、根こそぎ持ち去る人がいるらしく、今春も蕾をつけた株が、私が確認しただけでも四つも無くなってしまった。掘った痕跡は人間の手によるもの。人間の勝手な欲望で山の花が失われていくのはたまらない。山にも花にも申し訳がたたなく、この「たより」に掲載する事すらためられる。

一葉草の名の通り、薬用とされる。

路上に散り敷く白い小さな花粒＝ネジキ

登山道に米粒のような純白の小花が散り落ちている。これも初夏の花・ネジキ（捩木・ツツジ科ネジキ属）で、見上げると鈴なりに花をぶら下げている。そして幹は明らかにねじれていてこの木の名をおぼえやすい。

和紙の原料・ガンピ

今頃尾根上の道を歩くと、淡い黄色の花をつけた灌木に出逢う。花は小さく細長いラッパ状。植物の専門家の方に「ガンピ」だと教えてもらった。雁皮、ジンチョウゲ科ガンピ属。ミツマタ、コウゾと共に和紙の原料。

地味だが、意外とたくさん自生している。



上 イチヤクソウ



上 ネジキ



上 ガンピ 下 ママコナ



大峰山系・無双洞へ

5月24日厚生会友の会主催の「健康まつり」が新インフルエンザ蔓延予防のため、中止となった。止むを得ないこととは言え残念だった。

この「中止」が正式決定されてから慌ててオオヤマレンゲ山の会の例会への参加を申し出た。

当日は雨もよいの天候、覚悟して歩き出したが、幸運にも雨には会わず、少々涼しいくらいの気温が心地よかった。

花ではフタリシズカ、数種類のテンナンショウ、ギンリョウソウ、シロヤシオ（五葉ツツジ）、ヒメレンゲ、ギンラン、ツリバナ、ベニドウダン、オオカメノキなど多々あったが、サラサドウダン（更紗灯台・ツツジ科ドウダンツツジ属）の紅をさした小さい花、トチノキ（栃の木・トチノキ科トチノキ属）のシャンデリア風の大きな花が印象に残った。



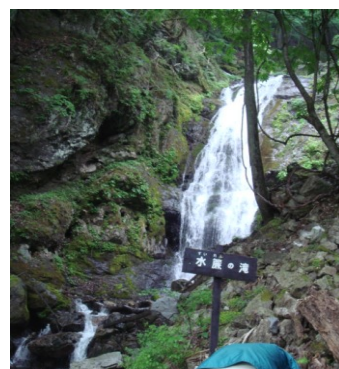
上 サラサドウダン

グリーンハイクにご参加ください

来る6月7日（日）全国で勤労者山岳連盟などが主催して「クリーンハイキング＝清掃登山」が行われます。私たちのオオヤマレンゲ山の会は高取町にある高取山を担当します。日本三大山城の一つとされる高取城がある山で、格好のハイキングコースです。山大好きみなさん、ご参加下さい。[近鉄壺阪山駅朝9時集合](#)です。



上 トチノキの花



上 水簾の滝



上 無双洞



上 ウワバミソウ
以上92号